

## 談話室

# 梅津理恵先生、 猿橋賞受賞おめでとう ございます！

奈良女子大学大学院自然科学系物理学領域；  
准教授

松岡由貴

「猿橋賞」という賞を、ご存じでしょうか？ 毎年受賞者が決まると、多くのメディアで取り上げられるので、知っているの方が多と思うのですが、簡単に紹介しますと“自然科学分野で素晴らしい研究成果をあげた女性研究者に贈られる賞”です<sup>(1)</sup>。この賞は、地球化学者・猿橋勝子氏によって創設されました<sup>(2)</sup>。猿橋氏は戦前～戦後間もなくの、まだまだ女性に研究者としての道が開かれていない時代に、水爆実験で生じた放射性核種の分析で非常に精度の良い分析結果を示すなど世界的な業績を上げ、後進の女性に道を開いてくださった“パイオニア”です。

猿橋賞の対象となる研究分野は自然科学全般に及び、これまでの受賞者の専門分野は物理・生物・化学・数学・環境・宇宙・・・と、実に多岐に渡ります。それだけに、“その分野で”だけではなく、“広く他の分野も含めて”みたときに、顕著な業績を上げたと評価される研究をしてようやく受けることができる賞と言えるのです。

39回目となる今年は、金属学会員である東北大学の梅津理恵先生が受賞されました(図1~4)。今回の受賞で評価された研究業績は「ハーフメタルをはじめとするホイスラー型機能性磁気材料の物性研究」で、ハーフメタル物質の電子状態を詳細に調べ、磁性材料としての有用性を示されました<sup>(3)-(5)</sup>。また、この研究手法として放射光が極めて有用で

あることも示されました。

私達の生活から“材料”が見えにくくなり、地道な物性研究や材料の研究・開発がいかに重要であるかを、一般の、特に若手の人に知ってもらうことが難しくなっている時代であるがゆえに、今回の梅津先生の受賞は、金属学会としても大いに喜ぶべきことと思っています。そして、金属材料分野が、女性研究者にとって“活躍できる”分野であると広く知ってもらうきっかけにもなると期待しています。

梅津先生がどのような努力や苦労を重ね、乗り越えて来られたか、という話は他に譲りますが、現在私が勤務する奈良女子大学に梅津先生が学生として在籍されていた頃の逸話(研究だけではなく、テニスで全国大会に出る程の実力者だった等々)を当時の恩師である松尾先生から伺い、やはり梅津先生は自分のやりたいこと・進む道をしっかりと自らの中に持っておられたのだなと感じます。積み重ねてこられたものが、こうして開花したことは、長年金属学会で共に活動してきた仲間としても誇らしいです。

梅津先生のこれから益々の御活躍を期待すると共に、私達金属学会員もまた、他分野の方々にも興味を持ってもらい、評価される研究を進めていきたいですね。

## 文 献

- (1) 女性科学者に明るい未来をの会  
<http://www.saruhashi.net/newhp/index.html>
- (2) 米沢富美子：岩波科学ライブラリー157 猿橋勝子という生き方、岩波書店、(2009)。
- (3) R. Y. Umetsu, H. Fujiwara, K. Nagai, Y. Nakatani, M. Kawada, A. Sekiyama, F. Kuroda, H. Fujii, T. Oguchi, Y. Harada, J. Miyawaki and S. Suga: Phys. Rev. B, **99**(2019), 134414.
- (4) 梅津理恵, 大久保亮成, 貝沼亮介, 石田清仁：まてりあ, **49**(2010), 462-470.
- (5) R. Y. Umetsu, K. Kobayashi, A. Fujita, R. Kainuma, K. Ishida, K. Fukamichi and A. Sakuma: Phys. Rev. B, **77**(2008), 104422.

(2019年7月19日受理)[doi:10.2320/materia.58.524]  
(連絡先：〒630-8506 奈良市北魚屋西町)



図1 猿橋賞受賞のスピーチ。



図2 猿橋賞受賞者、「女性科学者に明るい未来をの会」会員の方々と。



図3 猿橋賞受賞を知らせる記事や、女性研究者を取り巻く環境についてのコメント掲載等。



図4 東北大学金属材料研究所：高梨所長とご一緒に。